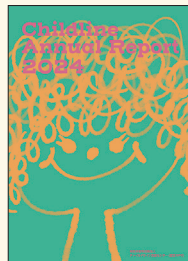


活動報告

『Childline Annual Report 2024』
ができました！

『Childline Annual Report 2024』を発刊しました。2023年度に電話・チャットなどで受けた子どもの声の記録と分析のほか、チャイルドラインからの提言「学校における〈聴かれる権利〉を保障する」などを掲載しています。ぜひご一読ください。



PDF

設立25周年記念
公開講演会開催のご案内

チャイルドライン支援センター設立25周年記念公開講演会を開催します。みなさまどうぞご参加ください。



申込み(Peatix)

《設立25周年記念公開講演会》

子どもの声が社会を変えていく ～聴き続けて25年～

- 日時 2025年1月18日(土) 12:00～16:30
- テーマ チャイルドラインの原点を確認し、チャイルドラインのこれからの展望と子ども支援を考える
- 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟
- 内容 チャイルドラインの創設に深く関わられた世田谷区長保坂展人さんと元文部官僚寺脇研さんがゲストのシンポジウム。
- 参加費 無料
- 定員 300名(申込要/1月6日まで)
- 主催 NPO法人チャイルドライン支援センター

ご支援・ご協力
ありがとうございます

子どもたちの生きやすい社会を目指し活動するチャイルドラインへのご支援をこれからもよろしくお願いいたします。

●2024年1月～9月のご寄付総額

10,815,321円

ゆうちょ銀行 振替口座 00120-5-425245
(019支店 当座0425245)
口座名 NPO法人チャイルドライン支援センター

※当団体は東京都の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税や法人税の控除を受けることができます。
(内閣府HP <https://www.npo-homepage.go.jp>)

Yahoo! ネット募金 募金サイト
<https://donation.yahoo.co.jp/detail/5452001>



※Yahoo! ネット募金とは、さまざまな社会課題の解決を目的にヤフー株式会社が運営する寄付のポータルサイトです。クレジットカードやTポイントによる寄付に対応しています。

フリーダイヤル、ネットでんわ、
オンラインチャット、つぶやく 実績報告

●フリーダイヤル

2024年1月～9月	当期	前年同期比
発信数	249,271件	-16,110件
着信数	120,183件	-9,078件
着信率	48.3%	-0.5ポイント
平均通話時間	4分41秒	-3秒
総通話時間	9,336時間	-850時間

●ネットでんわ

2024年1月～9月	当期	前年同期比
発信数	2,423件	新規事業につき 期間が異なり 比較データなし
着信数	2,185件	
着信率	90.1%	
平均通話時間	2分00秒	
総通話時間	56.2時間	

●オンラインチャット

2024年1月～9月	当期	前年同期比
訪問人数	100,663件	+1,322件
書込件数	31,056件	+5,347件
対応件数	12,673件	+2,291件
対応率	41.5%	+0.3ポイント
平均対応時間	38分16秒	-3分13秒
対応時間	8,091時間	+861.2時間

※フリーダイヤル=NTTコミュニケーションズ トラヒック調査ツールより
オンラインチャット=チャットシステムAI.BISのレポート解析結果
およびチャイルドラインデータベースより

●つぶやく

2024年1月～9月	当期	前年同期比
投稿件数	14,436件	-1,867件

編集後記

◆いつもチャイルドラインをご支援いただきましてありがとうございます。
みなが自分と違う価値観の人の存在や気持ちを受けとめ、尊重できるようになることでこの世界は、もう少し生きやすくなるのではと思います。
子どももおとなもお互いを、そして自分を大切にできる2025年になりますように。来る年がみなさまにとって佳い年になりますように。(M)

特定非営利活動法人(認定NPO)
チャイルドライン
支援センター

ニュースレター

News Letter

vol.

149

18さいまでの子どもがつながる
チャイルドライン®

特集 性教育

ここ数年、性犯罪に関する報道を多く目にするようになってきました。性犯罪は性別に関係なく存在し、おとなから子どもへの事件、子ども間での性的いじめや性暴力も起こっています。しかし、報道されているのはごく一部のもので、事件化されないものや表面化していない加害が膨大にあるように思います。性的な目的のために優しく接し信頼関係を得る「グルーミング」を経ての性被害や低年齢の子どもなど自分が被害者であることに気づきにくい場合も多々あります。また、いたずらの延長線上の犯罪と自覚しない性加害もあります。さらに、自分ひとりで問題を抱えた結果自殺や犯罪に至るケースもあり、社会の責任を感じずにはられません。子どもが被害者にも加害者にもならないために、私たちおとながまずしなければならぬことは、子どもが「されていること、していることが性暴力である、性加害である」と理解できるよう性教育を受ける機会を保障することではないでしょうか。そして、おとな自身も「性」について学ぶことが必要です。

チャイルドラインに寄せられる「性」の声

チャイルドラインにも「性」の話が多く寄せられています。会話が成立した主訴の内、約17%が「性」の話です。具体的には、自慰、性器のこと、性行動、性の多様性、興味・関心などが多く話されています。少ないですが、性被害や妊娠についての話もあります。性被害については本人にその自覚がないものも多く、むしろ自分に非があるように話す子どもがいます。純粋な疑問もあれば、知識不足からの悩み、誤った知識による無責任な行動など、いずれも基本的な学びができていないと痛感します。性的な興奮のためにつながってくる子どももやはり背景には同様の理由があるように感じます。

「性」について語れないおとなたち

一方、おとなも「性」について学んでいません。私自身、「性」について学校で学んだ記憶はなく、チャイルドラインの受け手養成講座が初めてでし

「性」への包括的な学びを子どもにも、おとなにも

た。私だけでなく、多くの人が「性」について学ぶことなくおとなになり、「性」の話＝「はずかしいこと」という意識や凝り固まった「男女観」が染みついているように思います。そのため、子どもからの「性」に関する質問や相談をうやむやにごまかしたり、一蹴してしまったりしてしまいがちです。

学校や家庭にいる身近なおとなのそのような空気感を敏感に察知する子どもたちは、おとなに相談することもできず、一人思い悩むか、誤った知識で行動してしまわざるを得ないのではないのでしょうか。

子どももおとなも「性」を学ぼう

「性」というとエロティシズムだけを思いがちですが、「性」教育とは自分の身体についての知識だけでなく、自分の心と身体を大切にすることを学ぶものです。自分の心も身体も自分のものです。自分のものを人から貶められたり、許可なく触れられたりしていいはずがありません。それは守られるべき自分の権利です。性教育は単なる知識教育ではなく、権利教育なのです。

現在学校でも性教育は行なわれています。しかし、チャイルドラインにつながってくる子どもの話からは、「今の性教育」では足りていない部分があるように感じられます。その部分をネットの中の間違った情報で埋めてしまったり、わからないまま我慢しているのです。すべての人には豊かな人生を送る権利があります。そのためにも、子どもには学校で包括的に「性」を学ぶ機会を保障することが必要です。そして、おとなも学校任せにするのではなく、自ら「性」を学び、子どもからの相談を受けとめともに考えていける存在にならなければなりません。

チャイルドライン支援センター
専務理事

関戸 真紀



発行日 : 2024年12月20日
発行 : 特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター(認定NPO)
〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5階 TEL: 03-5946-8500 FAX: 03-5946-8501
URL: <https://www.childline.or.jp/> E-mail: info@childline.or.jp





特集 性教育

special message

子どもたちの幸せを願うのであれば、 包括的性教育を

樋上 典子

元公立中学校教員
関東学院大学他 非常勤講師

- ※1 18歳意識調査 第39回 テーマ：「性行為」、日本財団、2021年7月28日
 ※2 厚生労働省、令和3年度衛生行政報告、人工妊娠中絶
 ※3 樋上典子・良 香織・田代美江子・渡辺大輔 著『実践 包括的性教育 ～「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」を活かす』エイデル研究所、2022年
 ※4 ユネスコ編、浅井春夫 他翻訳『国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】—科学的根拠に基づいたアプローチ』明石書店、2020年

日本の性教育は世界の水準から遅れをとり、人権を基盤とした性の学びを子どもたちに届けることができないのが現状です。インターネットが普及し、18歳の男子はアダルトサイトから得る情報の方が学校の授業よりも高いという報告があり※1、子どもたちが正しい性の情報を得ているとは言えない実態があります。誰もが持っているスマートフォン。子どもでも「アダルトサイト」へのアクセスは容易にできます。暴力の描写が多いアダルトサイトを信じることで、性への歪みが性加害を作り出している現状を私たち大人は知らなければいけません。

子どもへの性的搾取が深刻な状況であるため、2023年4月、文科省による「生命の安全教育」が各学校で一斉に行われることになりましたが、文科省からの教材には性器の名称もなく、「大切なところ」「水着で隠すところ」という表現です。なぜ大切なのかを子どもたちが理解することができないなど、危惧する点が多々ありま

す。幼ければ幼いほど、「性の学び」がない状況で性被害や性加害について認識するのがおずかしいのです。そして、距離間だけが強調され、人と人との柔らかな「ふれあい」の大切さについては語られていません。誰もが自分のからだのどこをどのように触れるかを決めることができる「からだの権利」をもっているという学びをすることがとても重要です。

誰もが幸せになるために、科学、人権等を基盤とした「包括的性教育」を進めていくことが求められますが、文科省の教材には普及されていません。性に関わる具体的な知識を避けざるを得ないのは、学習指導要領（平成27年度発行）に記載されたいわゆる「歯止め規定」があるからです。小学5年生の理科で受精に至る過程は「めだか」で、中学1年生の保健体育科で「妊娠の経過を取り扱わない」と記され、現場では性交や避妊、人工妊娠中絶は教えられないと受け止められているからです。

中学校の教科書には「性交」という文字はありません。非常にあいまいな言葉で書かれていながら、3年生で学ぶ「性感染症」では「コンドームが有効である」とはっ

きり記載されています。性交を知らずして、コンドームについて理解できません。高校生になると中絶件数が一気に上がります。また、蔓延している性感染症から身を守ることは不可能です※2。義務教育までの間にきちんと人間の性についての学びを子どもたちに届けることは大人としての責任ではないでしょうか。そして、学校現場の管理職や教員は性教育を行うことで、批判や攻撃に遭うかもしれないという委縮があり、なかなか前進しないのが現状です。

そのような中で、3年間のプログラムを組みながら公立中学校で14年間、大学の研究者らと協働で何回も授業検証を行ってきました。最低限学んでから卒業してほしいという思いで、「生命誕生」「女らしさ、男らしさについて考える」「多様な性」「自分の性行動を考える～避妊と人工妊娠中絶～」「恋愛とデートDV」について、現在も時間講師として授業を行っています※3。誰もが自分事として受け止められるよう、グループワークやクイズを取り入れ、「楽しく学ぶ」ことを大切に授業を展開しています。

1年生のはじめの授業では、クスクス笑ったり下を向いたりする生徒が多くいます。しかし、次第に「大切なこと」と認識するようになり、真剣な眼差しとなってきます。そして3年生になると、性をポジティブに受け止め、真剣に仲間と語り合い、自分の性のあり方について深く考えることが随所にみられるようになってきます。よく、性交や避妊等を教えると、「子どもの性行動が活発になる」と思い込んでいる人がいますが、これは大きな勘違いです。授業後のアンケート結果や感想から、確かな知識を身に付け、仲間と深く考え合うことで「性行動に慎重になる」ことがうかがえます。これは「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」※4の中で紹介されている国際的な研究成果においても、包括的性教育によって初交年齢が上がる、性交渉をするパートナーの数が減る、意図しない妊娠、性感染症、性暴力が減るといった成果が出ています。

全ての子どもたちの幸せを願うのであれば、多くの子どもたちが通る学校教育でしっかり包括的性教育を位置づけていくことが必要ではないでしょうか。



チャイルドライン支援センターより

1

包括的に性を学ぶということ

性の健康は基本的人権の柱であり、思春期に限定されず、ひとがみな保障される権利であるにもかかわらず「性が人権である」「性教育はそのために必要」ということが理解されていない現状があります。性の学習はウエルビーイング＝心地よく、幸せに、健康に、安全に生きるための大切な学びです。

2

性の学習のねらい※3

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 性について科学的に知る | 2 性について率直に話し合い、自己のニーズを主張し、相談できる |
| 3 正確な情報と支援に基づいた性行動を選択し、関係性をつくる | 4 「性の学習」が人権の保障につながることを理解する |

3

日本の現状 どんなことを学ぶ必要があるの？

2009年ユネスコを中心に「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」の初版が発表され、2018年には、よりジェンダー平等の実現に向けたものとして改訂されました。SDGsの観点からは、目標4「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」に位置づけられていますが、日本においては、ジェンダー格差の状況は改善されず、国連子どもの権利委員会からも「思春期の女子および男子を対象とした性と生殖に関する教育が学校の必修カリキュラムとして一貫して実施されることを確保すること」などと勧告されています。「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」では8つのキーコンセプトが示され、それらがさらに複数のトピックに分かれ、年齢グループごとに知識、態度、スキルを基盤とした学習目標で構成されています。※4

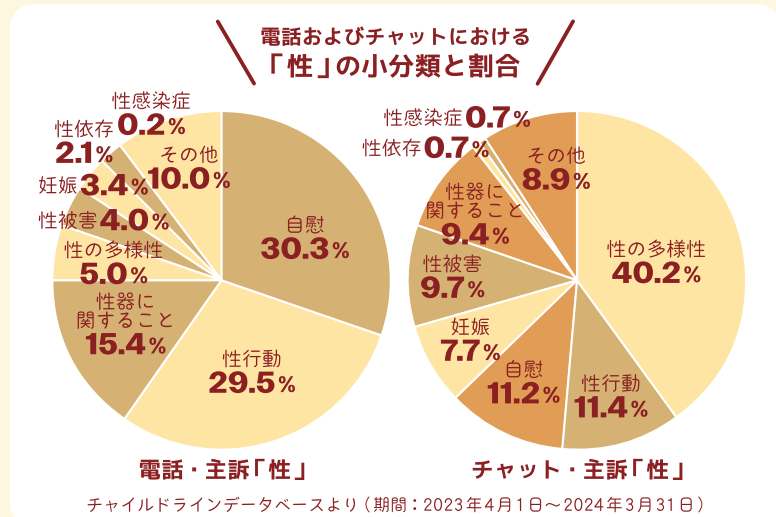
- | | | |
|-----------------|--------------------------|-------------|
| 1 人間関係 | 2 価値観、人権、文化、セクシュアリティ | 3 ジェンダーの理解 |
| 4 暴力と安全確保 | 5 健康とウエルビーイング（幸福）のためのスキル | 6 人間のからだと発達 |
| 7 セクシュアリティと性的行動 | 8 性と生殖に関する健康 | |

4

チャイルドラインに 届く声

チャイルドラインに届く性に関する電話やチャットからは子どもたちの関心の高さや戸惑いが伝わってきます。

- 真剣な話なのに笑ってごまかすのは何ですか？ 生まれながらの性別に違和感を持つ人がいることを知っておいてほしい。それが自分の子どもかもしれないこともあるということも。
- 親にオナニーがバレました。そんなによくないことかな？ 親には怒られました。でもSEXはしてみたいと思っています。これって変かな？
- 妊娠したかもしれないです。親にも彼氏にも友達にも言えません。まだ高2です。高校は卒業したいし大学にも行きたいです。どうすればいいですか？
- 僕は中2です。僕には家族・友だちに絶対言えないことがあります。小学2か3年あたり、知らない大人に僕は望んでいない行為を犯されました。知らない大人のことが今でもトラウマで……僕は知らない大人のひととすれ違うたびに震えてしまいます。



- 中2男子です。僕はまわりの人と比べて誕生日がかなり遅めです。それで今回困っていることが、恥ずかしながら、陰毛がまだ生えていないことで、中3の修学旅行までに生えないかもしれない。どうすれば陰毛が生えますか？ 間に合わなかった場合、どうごまかせばいいですか？
- 食欲と睡眠欲は満たしているのに、なんで自由に性欲は満たしちゃダメなんだろう。

※プライバシーに配慮し、再編成しています。